



平成26年12月期 第2四半期 決算短信資料

2014年10月27日(月)

カゴメ株式会社(2811)

<http://www.kagome.co.jp/company/ir/index.html>

連結業績(平成26年12月期 第2四半期累計)

単位:億円

	13年度	14年度	7/18修正				4/24	
			対前年		対公表		対期初予想	
			増減	増減率	増減	増減率	増減	増減率
売上高	1,037	1,028	▲9	▲1%	▲12	▲1%	▲62	▲6%
営業利益	50	33	▲18	▲35%	+1	+2%	▲15	▲32%
率	4.8%	3.2%						
経常利益	55	36	▲19	▲34%	+2	+6%	▲14	▲28%
率	5.3%	3.5%						
純利益	40	23	▲17	▲44%	+1	+2%	▲7	▲25%
率	3.9%	2.2%						

- ・微減収、減益となった。前年同期に特益があり純利益の減少幅が大きい。
- ・ほぼ、7月に修正した公表値通り。
- ・期初予想との差異は、売上の計画未達に因る。

野菜飲料

◆野菜飲料のブランド・温度帯別実績(4-9月)

単位:億円

ブランド・カテゴリー	温度帯	13年度	14年度	前年差	前年比
野菜生活	ドライ	57	49	-8	85%
	チルド	203	183	-20	90%
	計	260	231	-28	89%
野菜一日これ一本	ドライ	16	11	-5	66%
	チルド	79	73	-7	92%
	計	95	83	-12	87%
トマトジュース	ドライ	49	37	-12	76%
	チルド	6	9	3	146%
	計	55	46	-9	84%
その他		38	33	-5	86%
野菜飲料計		448	394	-55	88%

※同期間の野菜飲料市場規模は88% 出典:インテージSRI(全業態)

- 他の飲料との競合が激しかった。
- 誤ったネガティブ情報の存在や、8月の天候不順も影響した。
- 1Qは増税前需要の反動もあり83% → 2Qは92%。

事業別売上高(平成26年12月期 第2四半期累計)

◆国内

単位:億円

	13年度	14年度		
			増減	増減率
飲料	492	439	▲53	▲11%
食品	116	114	▲2	▲1%
ギフト	57	53	▲3	▲5%
生鮮野菜	56	52	▲4	▲8%
通販	44	46	+2	+4%
業務用	131	134	+3	+2%
その他	80	84	+4	+5%
国内小計	976	923	▲54	▲6%

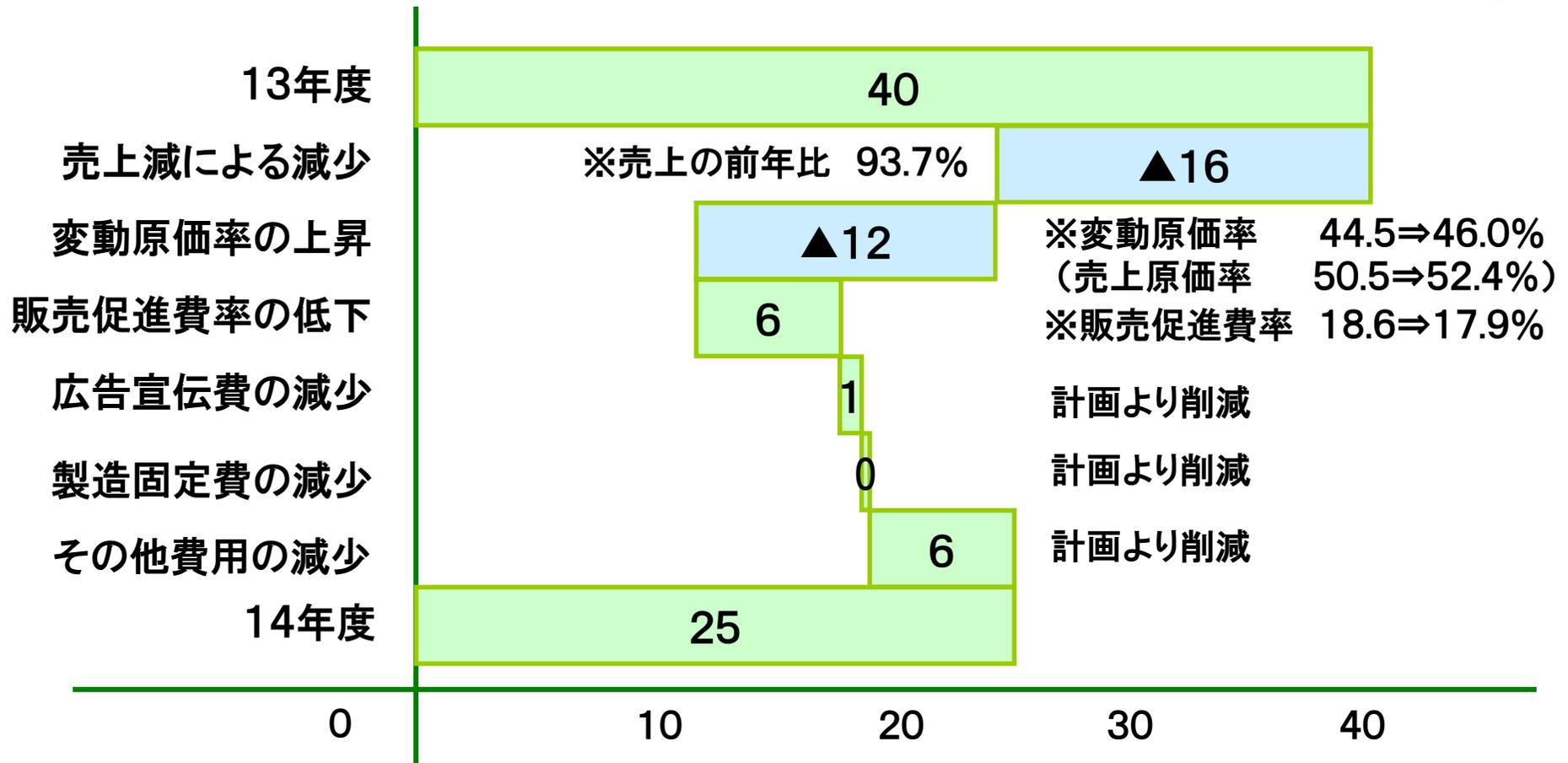
グループ内取引(「その他」に含まれる)を除くと、国内合計で▲57

- ・食品 1Qは増税前需要の反動で90% → 2Qは107%。
- ・ギフト 消費増税と野菜飲料の不振により、中元商戦で苦戦。
- ・生鮮 市場に多くのトマトが出回り、単価が下落。
- ・通販 季節・数量限定の商品で増分。
- ・業務用 大手顧客に対する営業力を強化。

営業利益増減要因(個別)

◆第2四半期累計(4-9月) 前年比

単位:億円



- ・世界的なトマトの価格上昇と円安により、変動原価率が想定通り上昇。
- ・販売促進費率は想定通り低下。
- ・売上の状況を鑑み、期中でコストダウン策を実行した。

事業別売上高(平成26年12月期 第2四半期累計)

◆海外

単位:億円

	13年度	14年度	14年度	
			増減	増減率
米国	65	86	+21	+33%
欧州	51	66	+14	+28%
豪州	18	29	+10	+58%
グローバルトマト計	134	181	+46	+34%
アジア	15	18	+3	+18%
海外小計	149	198	+49	+33%

- ・米国 United Genetics(UG)社+13、為替+5。計画通り。
- ・欧州 UG Turkey社+7、為替+6。計画通り。
- ・豪州 出荷時期が期末・期初を跨いだことにより増収。計画通り。
- ・アジア 昨秋開始のタイの飲料事業+2。

※利益は通期で、のれん代▲5億を含めても前期並みとする予定(実質改善)。

◆連結

	13年度	14年度	14年度	
			増減	増減率
セグメント間取引	▲88	▲93	-	-
連結(国内+海外)	1,037	1,028	▲9	▲1%

連結業績(平成26年12月期 第2四半期累計)

※再掲

単位:億円

	13年度	14年度	7/18修正				4/24	
			対前年		対公表		対期初予想	
			増減	増減率	増減	増減率	増減	増減率
売上高	1,037	1,028	▲9	▲1%	▲12	▲1%	▲62	▲6%
営業利益 率	50 4.8%	33 3.2%	▲18	▲35%	+1	+2%	▲15	▲32%
経常利益 率	55 5.3%	36 3.5%	▲19	▲34%	+2	+6%	▲14	▲28%
純利益 率	40 3.9%	23 2.2%	▲17	▲44%	+1	+2%	▲7	▲25%

◆まとめ

- ・国内の売上が誤算だった。野菜飲料の再成長が引き続き課題。
- ・国内事業の原価・費用の低減と、海外事業の増収・実質的利益改善が進む。

14年度経営課題① バリューアップ

◆商品の価値を磨き、価値に見合った価格を実現して、収益性を高める。

スマートペット化

スマートペット化

コップ5杯分→4杯分



KAGOME
スマート
PET
ペット

- ✓3~4日でおいしく飲みきれる。
- ✓持ちやすく、注ぎやすい。
- ✓冷蔵庫の中で場所をとらない。

- ・切り替えがスムーズでなかった。
- ・利益率を改善させた。
- ・よりどり販売に適性がある。

- ・ドライ野菜飲料を反転させるには至っていないが、販売本数は維持している。
- ・長い目で見れば需要は増える。粘り強く浸透に努める。

トマトヌーヴォー

トマトヌーヴォー

プレミアム



KAGOME
カゴメトマトジュース
PREMIUM

2014
解禁決定

2014
解禁決定

2014
解禁決定

2014
解禁決定

- ・国産、期間・数量限定、チルド拡充。
- ・8月のトマトジュースシェア+7%。
- ・野菜飲料トータルでは計画を下回る。

14年度経営課題① バリューアップ

◆情報発信によるバリューアップ

野菜をジュースで摂る価値

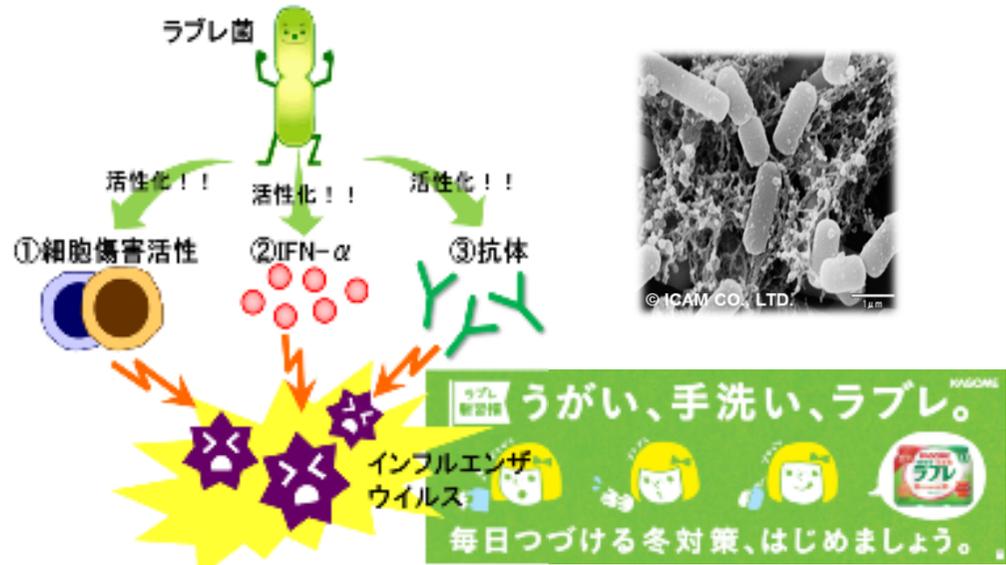
- ・たくさん摂れる。
- ・栄養の吸収率が高まる。
- ・原料の栄養価が高い。



野菜ジュースを食事前・食事中に飲むことで、食後の血糖値の上昇を穏やかにする。

- ・野菜飲料市場を能動的に回復させていくために、積極的に情報発信していく。
- ・当社の研究成果を活用する。

インフル感染リスクを低減



小学生を対象に試験を行った。ラブレ菌の摂取によって、インフルエンザ感染リスクを低減できる可能性がある。

14年度経営課題② 生産性の向上

コスト構造改革

- ・継続的な原価低減活動
- ・販売期間が短い商品をはじめとした滞留ロスの極小化
- ・販売促進費/広告宣伝費の効率的な活用
- ・定常的な固定費の削減
- ・商品の絞り込み

働き方の改革

単にコストを削減するだけでなく、

- ・新たな人事制度の導入
 - ・夜8時以降の残業の禁止/会議時間の削減
- などにより、仕事の生産性と心身の健康の向上を図る。

- ・**業務改革室**を設置(10月1日~)。
- ・売上がすぐには回復しないリスク、原材料価格の上昇、物流コストの上昇等に備え、収益の構造改革を進める。



14年度経営課題③ イノベーション

グローバルトマトサプライヤー

- ・13年度、種子事業、育苗事業を取得。
- ・トマトの事なら何でも提供できる体制をつくる。
- ・マレーシアにハラール認証に対応したトマト調味料の合弁会社を設立。



フレッシュ化への挑戦

- ・野菜やフルーツのフレッシュさを追求。
- ・調達/加工/ロジスティクスなどの革新課題に取り組む。



農業の成長産業化を推進

パックサラダ/カット野菜事業を行う新会社を、製造/仕入のノウハウを持つパートナーと共に設立。



連結業績見通し(平成26年12月期)

◆セグメント別売上高計画

単位:億円

	13年度 読替	14年度		
			増減	増減率
飲料	689	635	▲54	▲8%
食品	175	173	▲2	▲1%
ギフト	81	77	▲4	▲5%
生鮮野菜	78	75	▲3	▲4%
通販	66	72	+6	+9%
業務用	199	205	+6	+3%
その他	134	141	+7	+6%
国内小計	1,422	1,378	▲44	▲3%
米国	156	195	+39	+25%
欧州	108	130	+22	+21%
豪州	37	57	+20	+55%
グローバルトマト事業	300	382	+82	+27%
アジア	33	35	+2	+6%
海外小計	333	417	+84	+25%
セグメント間取引	▲172	▲175		
連結(国内+海外)	1,583	1,620	+37	+2%

13年度実績は14年度の変則決算基準で読み替えている。

- ・3Qの野菜飲料は前年並みで計画。減少トレンドを一巡で止める。
- ・海外事業は従来から12月決算。3Qには6ヶ月分が取り込まれる。

業績予想(平成26年12月期)

◆通期

単位:億円

	13年度	13年度 読替	14年度		
			増減	増減率	
売上高	1,930	1,583	1,620	+37	+2%
営業利益	68	64	46	▲18	▲28%
率	3.5%	4.1%	2.8%		
経常利益	75	70	48	▲22	▲31%
率	3.9%	4.4%	3.0%		
純利益	51	46	25	▲21	▲46%
率	2.6%	2.9%	1.5%		

13年度読替=14年度の変則決算基準

- ・利益率は低いと認識。14年度を底として、15年度には増益に転じる。
- ・配当は13年度の4分の3である、16円50銭を予定(変更なし)。

注意事項

当資料はカゴメの現在の計画、見通し、戦略などのうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたカゴメの経営者の判断に基づいております。従いまして、これら業績見通しのみで全面的な依拠することは控えるようお願い致します。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、以下のようなものが含まれます。すなわち、①天候、特に夏場の低温 ②異物混入等の製品事故 ③カゴメの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向 ④変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品やサービスをカゴメが企画・開発し続けていく能力、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また当資料は、あくまでカゴメをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。さらに当資料に記載されている市場などのデータ等におきましても、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した情報に基づき作成しておりますが、将来の予測のみならず過去の部分も含めて、見直し等により予告なしに変更することがありますので注意ください。